

第1回 中央区自治協議会 会議録

開催日時	令和8年4月24日（金曜） 午後3時から午後4時30分まで
会場	中央区役所 5階 対策室
出席者	<p>委員</p> <p>渡辺（雅）委員、相田委員、近藤委員、米倉委員、久保委員、上之山委員、青山委員、伊藤委員、野澤委員、田中（秀）委員、山岸委員、高橋（鉦）委員、長谷川（文）委員、藤井委員、平井委員、小林委員、渡邊（俊）委員、天本委員、田中（雅）委員、渡部委員、海藤委員、稲垣委員、島垣委員、五十嵐委員、白井委員、石橋委員、保坂委員、松川委員</p> <p>出席28名 欠席4名 （八木委員、長谷川（敏）委員、森本委員、菅原委員）</p> <p>事務局・説明者</p> <p>[新潟市教育委員会] 教育支援センター所長、中央図書館長、中央公民館長 [中央区役所] 区長、副区長、窓口サービス課長、健康福祉課長、建設課長、保護課長 東出張所長、地域課長、地域課長補佐 [新潟市役所] 政策企画部課長補佐</p>
議事	<p>1 開会</p> <p>○ 会議の成立について 委員32名中28名出席のため、規定により会議は成立</p> <p>2 区長挨拶（袖山中央区長）</p> <p>3 中央区管理職紹介</p> <p>4 報告（議長＝山岸会長）</p> <p>――委員活動報告――</p> <p>(1) 委員からの報告について</p> <p>①中央区自治協議会 委員推薦会議（資料 報1）</p> <p>(議長)</p> <p>それでは会議を始めさせていただきますと思います。次第の4「(1) 委員からの報</p>

告について」、はじめに「①中央区自治協議会委員推薦会議について」、渡部座長お願いいたします。

(渡部委員)

委員推薦会議座長の渡部でございます。私から委員の辞任および交代委員の就任についてご説明いたします。

資料報1をご覧ください。令和8年3月25日付で白山校区コミュニティ協議会の上松委員が、一身上の都合により辞任されました。上松委員の辞任を受け、選出母体である白山校区コミュニティ協議会から小林栄子さんが推薦され、承諾をいただき、令和8年3月26日付で就任することとなりました。所属部会は、前任委員が所属されていた部会を引き継ぎ、第3部会となっております。また、委員推薦会議につきましても、上松委員が兼任されておりましたので、そちらもお願いすることになります。

なお、交代委員の就任については、自治協議会委員推薦会議運営要項に則り、座長専決として承認させていただき、委員推薦会議の構成員の皆様には、先ほど令和8年度第1回委員推薦会議を開催し、その旨報告いたしました。以上で報告を終わります。

(議 長)

ありがとうございました。3月の全体会議で交代を報告させていただきました、稲垣委員、白井委員を含め、3名の交代となります。こちらで3名の方にごあいさつをいただきたいと思います。まずは小林委員、お願いいたします。

(小林委員)

こんにちは。白山校区コミュニティ協議会から参りました。1年間、よろしくお願ひしたいと思ひます。お世話になります。

(議 長)

続きまして、稲垣委員、お願いいたします。

(稲垣委員)

皆さん、こんにちは。中央区社会福祉協議会の稲垣と申します。この4月から前任高橋の後任としてまいりました。1年間、よろしくお願ひいたします。

(議 長)

白井委員お願いいたします。

(白井委員)

皆さん、こんにちは。今年度自治協委員を務めさせていただきます、大原簿記公務員

専門学校の白井と申します。地域を良くしていけるように真剣に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

(議 長)

皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

②新潟市防災会議（資料 報2）

(議 長)

続きまして、「②新潟市防災会議について」平井委員より、報告をお願いいたします。

(平井委員)

3月27日に行われました、新潟市防災会議に出席してきました。沼垂コミ協の平井です。よろしくお願いいたします。

お手元に、「令和7年度新潟市防災会議 会議概要」「新潟市地域防災計画の修正概要」「新しい防災気象情報」以上3枚の資料があるかと思います。

まず会議内容におきましては、新潟市防災会議の会議概要を見てください。主な議題といたしましては、令和7年度新潟市地域防災計画修正について、事務局の説明をもとに新潟市地域防災計画の修正案を審議し、計画の修正が承認されました。

2枚目の資料を見てください。新潟市地域防災計画の修正概要としましては、能登半島地震の災害初期対応検証報告書を踏まえて、いくつかの課題・問題点を改善し取り組んでいくこととなりました。

まず1つ目の課題は、被災者支援制度の体制が未整備という点です。そのため、支援制度の新設や拡充により、運用開始までに時間を要してしまいました。2つ目の課題は、被災された方への相談窓口の体制が不十分という点で、窓口会場や人員を速やかに確保できなかったことです。

この2点につきまして、体制の確立により被災された市民の早期の生活再建を図る目的で、「応急対策」、「復旧」、「復興」業務と、対応する本部を整理しました。応急対策は災害対策本部に、復旧・復興は復旧・復興本部として、統括本部員を新たに設置します。また、「チームにいがた」活動ガイドラインの反映ということで、生活再建支援業務編に則り、業務を進めることを明記したとのことでした。

3つ目の課題はBCP、いわゆる業務継続計画の判断基準が不明確といった点です。通常業務の継続と停止、縮小の判断が難しく、災害対応の人員が限られていました。この問題点を踏まえて、行政機能の継続性の確保や、早期の行政機能の回復をするために、BCP 発動基準を記載するといったことが取組事項とされました。

その他、災害対応の業務分担を明確にするため、計画本文に従来「保健衛生対策部」と記載されていたものを「保健衛生総務班」とし、担当班を記載することとしました。

議題の概要としては、以上となります。

次に、報告事項として、新潟地方気象台より新たな防災気象情報についての説明がありました。3枚目の資料を見てください。左側から右側の防災気象情報に変わるといことです。運用開始は5月下旬と知らされております。河川の氾濫や、大雨、土砂災害、高潮に関する情報等は、これまで警戒レベルとの対応が複雑でわかりにくくなっていました。そこで、今回の改善により避難情報の5段階の警戒レベルに対応させることで、避難の判断がしやすくなります。詳細につきましては、新潟地方気象台のホームページをご覧になっていただきたいと思います。特に、この3枚目の資料におきましては、各コミ協の防災担当者にぜひ見ておいていただきたい資料ですので、よろしく願いいたします。以上です。

(議 長)

ありがとうございました。ただいまの件につきまして、ご質問ある方いらっしゃいましたら、挙手をお願いいたします。

ないようですので、次に進みたいと思います。

(2) 部会からの報告について

①第1部会(資料 報3-1)

(議 長)

「(2) 部会からの報告について」、第1部会、松川部会長お願いいたします。

(松川委員)

よろしく申し上げます。第1部会の4月の会議概要についてご説明申し上げます。日時、会場、委員等は資料をご覧ください。

議題ですが、3月までに決まりました、今年度の方針として、シェアサイクルの市民への浸透をさらに図ろうということで、PR活動をイベントに合わせて行うことに決め、5月10日日曜日の「新潟下町・早川堀通りつつじ祭り」に合わせてブースを出展することになりました。4月10日の部会では、シェアサイクルの運営団体である一般社団法人にいがたレンタサイクルの高橋様にお越しいただきまして、詳細を詰めていきました。会場ブースの設置はレンタサイクルさんをお願いできることになりまして、我々委員は、午前と午後に分かれて4人ずつ、ビブスを着用して、「ここで乗っていきませんか」と声掛けをすることとなりました。実際に乗っていただいて、興味を示していただいた方には、アプリ導入のお手伝いをし、アプリを用いて会場で自転車に乗る、鍵を閉めて返すという流れを実際にやっていただき、浸透を図っていくことになりました。

アンケートの内容についても、今委員の間で詰めておりまして、5月の部会がつつじ

祭りの2日前ですので、そこで内容を最終決定し、当日はアンケートにご協力いただける方には回答をお願いして、アンケート結果を今後の活動に活かしていくことを考えております。

そのほかに、レンタサイクルさんから、現地を確認して作成した、どこの道が自転車で走れる、どこが走れないかが示されている資料をお見せいただきました。建設課さんではこの資料を印刷し、要所に配置していたそうなので、当日までに改めて刷っていただいて、どこを走れば安全かといった点についても併せて周知していく予定です。また、4月1日から自転車が青切符の対象となり、たとえばスマホを見ながらの運転は違反となることから、法律や規範についても周知を行う予定です。

また、レンタサイクル運営団体の高橋さんのお話によると、利用者の伸び率は増えているものの鈍化しており、1人当たりの利用額は約1割ぐらい減っているとのこと。利用者が使い方に慣れて短時間の利用が増え、長時間の利用が減っているようです。利用者が増えているものの収益に結びつかないということです。今年度は3回ほどこのようなPRをイベントに参加して行うことになっていますが、その間に部会としては、どうやったら収益を上げられるか、市民への周知を目的にやっておりますけれども、さらにできることはないか、意見を出し合いながら議論していきたいと考えております。第1部会からの説明は、以上になります。お願いします。

(議長)

ありがとうございます。続きまして第2部会、石橋部会長お願いいたします。

②第2部会(資料 報3-2-1、3-2-2)

(石橋委員)

第2部会の石橋です。よろしく申し上げます。資料は報3-2-1と3-2-2の2枚になっています。スケジュールの関係で、今回の全体会で2回分ご報告させていただきます。詳細については記載のとおりなのですが、記載のないところを中心にご説明したいと思います。一言で申し上げますと、ここ2カ月ぐらいは学校への営業回りみたいな時期でした。というのも、第2部会では昨年度から、「こどもたちが地域のことを考えるきっかけをつくろう」という、きっかけづくりを目標に動いてきました。昨年度はその具体的な中身や、どの学校と連携すべきかを詰めてきました。3月、4月になりまして、各学校の令和8年度のカリキュラムが見えてきたというところで、このタイミングをねらって学校への営業回りをして、連携できないかという提案をしてきました。記載の中であがっている中学校が、鳥屋野中学校、白新中学校、上山中学校、柳都中学校、第一中学校と5、6校回ってきました。

4月13日の時点では、まだ具体的に連携先や授業の内容が決まっていなかったのですが、ここ1～2週間ぐらいで動きがありまして、白新中学校と鳥屋野中学校に関して

は、どちらも5月22日に、我々第2部会のメンバーや、その地域のコミ協の方々が総合学習の授業にお邪魔させていただき、地域課題について考えたり、地域のいいところや困りごとなどを取り上げて、子どもたちと座談会形式で対話をします。またあるいは地域外のこと、子どもたちが自分の学区内のことだけでなく、地域外と比べるとどうかといった目線も、我々のほうで提供できればと思っています。

今回の取組において、5月22日の白新中学校での生徒との座談会では、第2部会以外の方にも一緒に学校に行っていただくをお願いをすることもできません。その際は、ご協力よろしく申し上げます。第2部会からは以上です。

(議長)

ありがとうございます。第3部会、田中部会長、お願いいたします。

③第3部会(資料 報3-3)

(田中(雅)委員)

第3部会、湊地区コミ協の田中です。本日は、入室してびっくりしました。こんなにも見晴らしがよく、皆さんの顔が見えるような配置にできるのだと、これからが楽しみになりました。また、第3部会、お二人のフレッシュなメンバーを加えまして、新年度取り組んでいきます。

では、ご報告いたします。お手元の4月10日に開催の会議概要をご覧ください。詳細については省かせていただき、かいつまんで申し上げます。鳥屋野潟について長らく活動されている活動団体はたくさんあるわけで、こういった方々の活動を市民に周知する機会を作りたいと考えました。特に、11月には「世界湿地都市ネットワーク市長会議」という、素晴らしい機会が巡ってきます。その直前に市民向けのPRイベントができないか考えてきました。しかし、会場の選定には課題があり、広く市民が集まるようなところを借りるには費用がかかってしまいます。そこで、ある程度関心のある方が集まりやすい会場を優先することになり、真っ先に候補として市民プラザがあがりました。11月中の空き状況を確認したところ、最終的に28日に決定いたしました。翌週から市長会議が始まるという非常に良いタイミングでの開催になります。また、市長会議に先立つ形で開催できることや市民プラザが土曜日に確保できたことについても運が良かったと感じています。

イメージとしては市民プラザをフラットに使い、さまざまな活動をされている団体の方々に、特設のブースをつくっていただき、見本市のように開催する予定です。加えて、ステージでは登壇者が水辺のアピールをするといった形で、市民プラザに来ると様々な楽しみがあるような1日にしたいと考えております。今からしっかり企画をして、素晴らしい会にしたいと思いますので、自治協委員の皆様、行政関係者の皆様、傍聴席の皆様、11月28日ぜひお越しください。第3部会からの報告は以上です。

(議 長)

ありがとうございます。続きまして第4部会、天本部長お願いいたします。

④第4部会 (資料 報3-4)

(天本委員)

万代コミ協の天本です。よろしくお願いいたします。第4部会は、4月8日に第1回の部会を開催いたしました。資料は報3-4になります。会場と出席委員は記載のとおりになります。

第4部会では、昨年度に引き続き、謎解きイベントの詳細を話し合っております。先ほど第3部会でも費用の話が出ていましたが、第4部会も、昨年度の東区の謎解き宝探しイベントの業者委託料が、全体で結構な金額がかかるとヒアリングの際に聞いたので、コスト面にやや不安を負いながらも、昨年度中にはノベルティでお配りするシールの発注を済ませているのと、そのノベルティを発送する発送費用を計上していました。今年度の予算も30万円ほどと限られているので、なるべくコストをかけないよう、委員の皆さんに謎解きやクイズを考えていただいたり、対象スポットで歴史文化を学べる動画をつくろうと試行錯誤しております。

動画については、前回の部会で私が作成したものを委員の皆さんにも見ていただいたのですが、わかりやすいとお言葉をいただいたので、事務局に動画の使用が可能か確認していただいております。

情報を参加キットに載せる案や、対象スポットにパネルを設置するといった案もあるのですが、パネルが大きいと、イベント開催期間が10月24日から11月4日と長期間にわたるため、管理の問題があります。また、文字情報はあとで読もうと思っても、大人でも読まなかったりするので、動画でイラストや音声を使うことで、こどもたちには少し難しめの歴史文化も興味を持ってもらえるのではないかと考えております。

会議概要にある立ち寄りスポットというのが、クイズや動画の二次元コードを設置させていただくスポットのことです。現在の候補としては、まちみなと情報館、新潟大神宮、旧齋藤家別邸、どっぺり坂は最寄りの寄居コミュニティハウス、新潟カトリック教会が上がっています。仮の候補としてはイタリア軒が上がっています。その場所にちなんだ謎解きやクイズをただいま用意しております。内容が固まり次第、各スポットへポスターや二次元コード設置のお願いをする予定になっております。

ほかの部会の会議概要を見て思ったのですが、第4部会はいつも話し合いが長引いてしまいまして、90分子定が2時間かかることもあります。毎回盛り上がりながら議論をしています。引き続きより良いイベント実施のために進めていきたいと思っております。以上です。

(議 長)

はい、ありがとうございます。今まで1部会から4部会までご報告いただきました。皆さんここでご質問ある方、いらっしゃいましたら挙手をお願いいたします。

ご意見、ご質問、大丈夫でしょうか。松川委員、どうぞ。

(松川委員)

公募委員の松川です。第3部会と第4部会にまとめて1つ同じ提案をしたいと思います。内容が決まったらできるだけ多くのところにポスター、チラシ、二次元コードの配置、それも少しでも人の多いところ、できれば市の管理している施設や、例えば駅の情報スペースや、NEXT21 はもちろん、多くの場所に設置してもらいたいですし、そうやって少しでも PR を増やしていただくと参加者も増え、大成功に終わるのかなと思いますので、事務局と相談の上、PR していただければというのが私の提案です。よろしくをお願いします。

(田中(雅)委員)

第3部会です。事務局とも相談し、前向きに取り組んでいきたいと思います。

(天本委員)

第4部会です。東区のイベントがあったときに、どのように告知したのか教えていただいたのですが、小学生ぐらいを対象として想定しているので、小学校に向けてチラシを配布してもらうということや、新潟日報などのメディアを活用させていただくことなどを考えています。ポスターに関しては、印刷コストの問題などがあると思うので、お金をかけない形でアドバイスいただいたように PR していきたいと思います。

(議 長)

ありがとうございます。ほかに意見等がありますか。ないようでしたら、5番のその他に移らせていただきます。

5 その他

(1) 各所管課からのお知らせ

(議 長)

(1) 各所管課からのお知らせということで、「2026 JCI ASPAC 新潟大会について」、政策企画部川上課長補佐、よろしくをお願いいたします。

(政策企画部課長補佐)

新潟市役所政策企画部、川上でございます。本日はこのようなお時間をいただきまして、ありがとうございます。私からは、青年会議所の国際会議であります ASPAC についてご説明させていただこうと思っております。資料は、カラーのホチキス留めしてある 2 枚組になってございます。こちらをご覧くださいければと思います。

では、説明させていただきます。青年会議所では、アジア各国の 40 歳未満の経営者の方々が一堂に会する会を「ASPAC (アスパック)」と呼んでいるのですが、通称でございまして、正式には「JCI アジア太平洋エリア会議」でございます。重複になりますが、アジア各国の 40 歳未満の経営者の方々が約 8,000 人、6 月 11 日から 14 日、朱鷺メッセで国際会議を行うといった会議になってございます。

世界を 4 つに分けてエリア会議をやりますが、この ASPAC が一番会議としては盛んで、参加者も多くなってございます。最近、経済状況が隆盛を誇っておりますアジア各国ということで、非常に購買意欲もありまして、この 4 日間は新潟市内、特に中央区で、様々な飲食やサービスが期待されているところでございます。この ASPAC は、新潟青年会議所が主催者になってございますが、政策企画部では、国際会議の経験等々ございますので、支援をさせていただいているところでございます。

参加国数としては約 50 カ国で、参加目標数は海外 3,000 人を含む 8,000 人でございます。経済効果は約 13~14 億円と、このような会議は、新潟県内においても過去最大規模とうたってございます。下のスライドをご覧くださいなのですが、8,000 人という規模の方々が来られますと、大会期間中どうなるのかといいますと、まず交通のところ、「タクシー等の利用者急増」というところで、会議が深夜にまで及んで、朱鷺メッセから、夜の 10 時頃から夜の街に人が流れるということも想定されます。

また、お土産なども非常に多く売れることも期待されております。加えて、飲食についてですが、昼も夜も市内への回遊が期待されます。この会議が朱鷺メッセで行われるのですが、会議に参加されない方も新潟に来られます。そういった方々は新潟の観光を楽しみに来られるということで、普段は夕方から夜にかけて開ける飲食店の方々にも、少し早めのオープンをお願いすることや、英語表記のメニュー、キャッシュレス決済の対応などをお願いをしているところでございます。

最後に観光についてですが、参加者の皆さんは観光を最大の楽しみにやっけてまいります。新潟を PR する絶好の機会でもあるというふうに市でも考えておまして、青年会議所を支援しているところでございます。おめぐりいただいて、「新潟の『食』を発信」と、「新潟の『観光』を体験」と記載のあるページになってございます。

まず上のほうが「新潟の『食』を発信」とありますが、それぞれ、新潟青年会議所の会議の 1 つのメニューとしてつくっている宣伝でございます。この会議期間中、万代島多目的広場大かま、新潟駅周辺、万代エリア、古町エリアで使えるようなランチクーポン券を参加者 8,000 人の皆様に配布します。こちらの割引券を使って市内周辺を周遊していただくといった方向性で青年会議所も考えております。

下のスライドになりますが「新潟の『観光』を体験」、こちらが旅行ツアー、体験ツアーを計画して、参加を促す形で事前にご案内しております。その中であまり時間のない方で、近場のみなどぴあや、酒蔵などのツアーも組み込みまして、観光を事前にPRしてございます。

続いて、青年会議所は40歳未満の方々の団体ですが、そのOBの方々が中心になって、この機会は千載一遇のチャンスだということで、「Niigata ULTRA SPARK」という市民団体を結成しまして、この機会に、新潟に来訪される方たちだけの大会にするのではなくて、新潟市民をあげて盛り上げようということで、いろいろ取り組んでいる内容について、説明させていただきます。「Niigata ULTRA SPARK」というふうに銘打っておりますが、内容としましては、6月13～14日の2日間、このASPACの開催期間中の土日、週末に当たります。にいがた2kmの都心エリア、新潟駅から万代、古町、このエリアで様々なイベントを同時開催いたします。例年であれば秋や春先に行っているイベントも、少し規模を小さくしながら、例えば「にいがた総踊り」や、「にいがたキャンドルガーデン」などのイベントを、同時多発的に開催いたします。これにより、新潟市の市民全員がこの中心部に集まってくるようなそんな仕掛けを市民団体の皆さんが計画しております。

「Niigata ULTRA SPARK」では、単にイベントだけではなく、2つほど別メニューも用意してございます。この6月というのは、商業の谷間でもございまして、ボーナス前、新年度明け、ゴールデンウィークの終わりなどにより、経済活動が少し伸び悩む時期でもあります。そういったところで、ブラックフライデーのような狙いもあるのですが、オレンジの看板やフラッグなどを掲げて、割引や追加サービスをしてみませんかと、市民団体の皆さんが、商業施設などに、この期間中、特に6月13、14日はセール等を行っていただけないかと働きかけております。

その下ですが、新潟県とも連携して、まちを練り歩こうと考えております。6月中旬の新潟は、梅雨といえどもあまり雨が降らない時期であります。なおかつこの期間というのは、タクシーやバスなどが混み合うため、一生懸命歩きましょうよという、健康を促すような声掛けを新潟県も推進して、まちを歩く、「WALKING and SPARKING(アルスパ)」というところで、計画してございます。

また、市民団体の皆さんは、社会実験とうたいまして、いろいろなことを計画しております。重複にはなりますが、ASPACの参加者も含めましてお昼からかなりの方が周遊されますので、居酒屋などのアーリータイムオープンを計画しております。また、新潟圏域のタクシーが枯渇するのではないかとということで、区域外のタクシーに対して、その期間に限り営業できるように、今手続きを進めておるところでございます。そういったことをはじめ、いろいろな社会実験をやっという市民団体の皆様は計画されています。

あとは、下に事業者様、市民の皆様をお願いしたいことが書いてございますが、8,000人の方々が新潟に来訪して、なおかつ市民の皆様が中心部に集まるというこの機会を

もって、一緒にいろんなことを試しにやってみましょうといったことをここに記載してございます。ぜひご覧いただければと思います。以上、政策企画部からのご紹介でございました。

(地域課長)

それでは、続きまして、「2026 JCI ASPAC 新潟大会」における中央区地域課関連事業「信濃川から Let's BON！」についてご説明させていただきたいと思います。資料はこちらのA4一枚で、「信濃川から Let's BON！」と書かれたもののペーパーをご覧ください。よろしいでしょうか。今ほどの政策企画部からの説明にありました、6月13日から14日に市内で開催されます、「Niigata ULTRA SPARK」の事業の1つとして、信濃川ウォーターシャトルの船上や、信濃川左岸緑地で新潟の民謡、盆踊り、太鼓を体験するイベントを開催いたします。多くの方が新潟市を訪れていただくということで、来訪者や地域の方に、みなとまち新潟を感じていただく事業をしたいという思いで考えたものになります。

このタイトルにある「Let's BON」の「BON」は盆踊りの「盆」から取っております。趣旨は ASPAC を契機とした本市の魅力発信を行うとともに、連携して盛り上げを図るため、盆踊りを通じて世代や国境を超えた交流機会を提供していきたいと考えております。

開催日時は6月13日土曜日の午後12時30分から午後8時30分までとなります。資料、上から3つ目の「信濃川ウォーターシャトル」と書いたところですが、昼間の部では、朱鷺メッセ発みなどびあ着のウォーターシャトルを、午後12時30分、1時30分、2時30分の合計3便運行し、船上で風を感じながら盆踊りをお楽しみいただけるイベントを実施いたします。便ごとに内容が異なっており、1回あたりの所要時間は約45分、定員は各便30名と設定しております。なお、参加費は無料です。

上から4つ目の「みなとびあ周辺イベント」として、新潟シティガイドによる下町まち歩きも実施いたします。受付場所はウォーターシャトルの到着地点付近を予定しております。参加費は無料です。ウォーターシャトルを利用されない方でも、直接現地にお越しただいて参加できます。1回あたり90分から120分ということなのですが、下町の魅力をたっぷり体験いただけるのではないかと考えております。また、午後2時から3時までは、信濃川左岸緑地にて、盆踊りのワークショップを開催いたします。屋台やキッチンカーも出ますので、お好きな時間にお越しになって、お楽しみいただければと思います。

そして、5つ目「VIVABON (ビバボン)」と読むのですが、午後4時から午後8時30分まで「VIVABON」を開催いたします。これは、5つの民謡団体による生演奏で盆踊りをお楽しみいただくイベントで、去年は8月に開催したのですが、今回はこのASPACに合わせて6月の開催といたしました。こちらも参加無料です。盆踊りの得意な方もそうでない方も、どなたでも皆で輪になって盆踊りを楽しんで、世代を超え

た交流を生み出せる機会だと思っております。ぜひ、多くの皆様からの参加をお待ちしております。

最後に会場配置図は資料のとおりです。駐車場のご用意がありませんので、当日はできるだけ公共交通機関でお越しいただきますよう、お願いいたします。私からの説明は以上です。ありがとうございました。

(議 長)

ありがとうございます。皆さんお聞きになられまして、質問、ご意見あります方、挙手をお願いいたします。

上之山委員、どうぞ。

(上之山委員)

上山校区コミュニティ協議会の上之山です。ASPACの説明で、資料の最後に「大いにこの瞬間を活用し、さまざまな取組や社会実験を推進してください」とあるのですが、この自治協でのお知らせがもう少し早かったら、関係部会で関連した取組の検討ができたのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。

(事務局)

上之山委員、ご意見ありがとうございます。事務局から補足なのですが、この動きがわかったときに、第3部会において、取組の説明をさせていただいた経緯がございました。左岸でイベントを開催するというので、第3部会にはご説明させていただいたところでした。

(地域課長)

私からも一点。今ほど第3部会に説明したというお話がありましたけれども、横の取組では、公共交通やレンタサイクル等の活用なども考えられると思いますので、今後も各部会の皆様にご協力いただけるように、早めに情報提供してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

(議 長)

ありがとうございます。ほかにございますか。

松川委員、お願いいたします。

(松川委員)

第1部会の松川です。よろしくお願ひします。懸念点として、以前も国際会議があったときに、古町に人を呼び込もうということでシャトルバスまで出したけれど、あまり人は来なかったそうです。「新潟の『食』を発信」とありますけど、発信が弱いのでは

ないでしょうか。例えば寿司の写真ありますけども、お隣の富山は、「富山は寿司県だ」とうたっています。では、新潟の寿司は富山と何が違うのかとった、ディープな情報が観光客は欲しいのではないかと思います。ランチクーポンもいいのですが、どこに行って何を食べれば新潟ならではの体験ができるかという発信をしていかないと、また素通りされてしまう可能性があります。

それから、観光の予定ツアー数が8～10 というのも少ないかなと思います。私、公共交通研究者なので一番懸念しているのが、タクシー利用の急増で、対応がパンクしてしまうのではないかと思います。それでなくても、今年に入って1社営業停止していますので、タクシー業界としても厳しい状況です。ほかの地区から呼ぶとの話もありますが、それもまだ確定してないようですので、第1部会ではシェアサイクルの促進事業を実施していますが、6月ということは梅雨入りしていますし、キックボードについても記載がありますが、新潟市内で現在実施しているのは北区だけです。これから間に合うのかという点についても非常に心配です。

来る方の目線で考えると、新潟に到着した際に、どこに何があるかがわかるようにする必要があると思います。例えば前回の国際会議でも、朱鷺メッセから古町への行き方がわからないという声がありました。看板もなく、サインもありません。では、Googleマップで調べて来てくれるかというのと、実際には近場の万代や駅前に行く方が多いと思います。では、古町にはどう来てもらうのかという課題があります。また、14日日曜日が最終日とのことですが、古町では日曜日に営業していない飲食店も多くあります。そうした中で、どのように来訪してもらうのかという点も課題です。アーリータイムオープンの取組は良いと思いますが、そもそも日曜日に閉まっている店舗もありますので、営業してもらう必要もあります。

実際にどれだけの経済効果が出るのかという点について、さらに踏み込んだ施策が必要ではないかと感じています。期間も既に2カ月切っていますので、やれることは限られると思いますが、まず、本日駅を通過してきましたけど、駅の中にこのASPACに関する表示が一切ありませんでした。まずはそういうところから始めたらいかがでしょうか、というのが私の意見です。以上です。

(政策企画部課長補佐)

ありがとうございます。最後にお話にありました広報関係でございますが、2カ月をもう切っておりますが、ASPACが開催されるのだな、と皆さんにお示しできるように、新潟青年会議所それからULTRASARK実行委員会と一緒に、私どもも精一杯支援していこうと思います。

それから、「食」の発信についても、青年会議所のクーポンの仕組みなど、様々な工夫を考えております。キャッシュレスで対応するにはどうしたらいいのか、クーポン券をどういう形で配るか、そういった点も市役所の広報媒体などを通じてできることは行っていきたいと考えております。

交通関係については、都市政策部も一緒になり、国土交通省とも協議を進めており、区域外営業については見通しが立ってございます。ただキックボードについては、おっしゃるとおりまだ見通しが立っていないのが現状でございます。以上でございます。ありがとうございました。

(議 長)

ほかにございますか。

上之山委員どうぞ。

(上之山委員)

上山校区コミュニティ協議会の上之山です。提案も含めた質問です。地域課もそうなのですが、中央区長、コミ協の会長、副会長を含めた方になのですけれども、前に新潟市で、G7新潟財務大臣・中央銀行総裁会議が開催された際、おもてなし美化活動をしたと、前佐藤会長から聞きました。このような会議の機会に、中央区自治協委員全員が参加するようなイベントをしたら、もっと中央区民の方に周知できて盛り上げることができるのではないのでしょうか。以上です。

(地域課長)

上之山委員ありがとうございます。そういうふうに、みんなで盛り上がっていただけるようなこと、何かできるのか、検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。

(議 長)

田中委員どうぞ。

(田中(雅)委員)

湊地区コミュニティ協議会の田中です。青年会議所のイベントで、国際会議なので、新潟市商工会議所、中央区、さまざまな組織が支援を検討している状況ですが、現状は関係者が複雑に入り組んでいると思われます。その中で地域課ができることとして「信濃川から Let's BON!」を企画し、朱鷺メッセで会議を行っている方々を対岸までウォーターシャトルでお連れし、楽しんでいただきながら古町へ誘導するというのを考えてくださったのは大変いいことだと思います。ただ、このウォーターシャトル、各便定員 30 名という点についてお伺いしたいです。アナスタシア号もベアトリス号も 100 名程乗れると思うのですが、定員をなぜ 30 名に設定したのでしょうか。30 名ずつ 3 便の運航ですと、合計でも 100 名に満たない人数となる点については、やや不十分であるように思われます。この点お聞かせください。

(地域課長)

田中委員ありがとうございます。おっしゃるように、定員は 100 名程乗れるというところなのですけれども、船の中で風を感じながら、そこでみんなで盆踊りを楽しもうということで、今回のイベントは盆踊りをテーマにしておりました。船の中でデッキに出て盆踊りをする、踊って楽しむとグループと、また中で説明を聞いて周遊を楽しむというグループがあります。全員がデッキで踊るわけにいかないので、グループを分けて踊りを楽しんでもらいながら、また周遊も楽しんでいただきたいというところから、100 名ではその仕組みにするのは難しいと考えたため、乗員できて、かつデッキで皆さんが踊りを楽しめる定員ということで、30 名という形で設定しておるところです。

(田中 (雅) 委員)

そうであるならば、先ほど松川委員が指摘したとおり、この万代島から古町方面への移動にはとても不安がある中で、ウォーターシャトルは非常に良い交通手段になるわけです。盆踊りは左岸で行なっているわけですから、そこで楽しんでいただいて、船の上で盆踊りをして海に落ちてしまう危険だとかを考えると、船の中では踊らないほうがいいのではないかと私は思います。あくまでウォーターシャトルは多くの人を輸送する手段として用い、楽しみは降りてから、といったことを提案したいと思います。

(地域課長)

ありがとうございます。輸送手段を第 1 の目的に考えていなかったというところが、定員が少なくなっている要因の一つかもしれません。みなさんに盆踊りをして楽しんでいただくことを本計画の趣旨としておりました。そのため運搬に関する定員につきましては、やむを得ない部分もあると考えておりました。

(田中 (雅) 委員)

繰り返し申し上げますけれども、8,000 人の参加者が朱鷺メッセを中心に集まる中で、可能な限り多くの方が乗船できるよう、ぜひ再検討をお願いいたします。

(区 長)

区長の袖山です。いろいろな建設的な意見ありがとうございました。新潟青年会議所が主催ということで、中央区としてできることが限られているという面がございます。あと残り 2 カ月ということでございますけれども、中央区として、何かできる部分があるのであれば、前向きに考えて、政策企画部とあらためて調整させていただければ思っております。以上です。

(議 長)

野澤委員どうぞ。

(野澤委員)

紫竹山コミ協の野澤です。私は新潟青年会議所には入っていませんでしたが、私もいろいろな会議出るので、こういった会議の場合、大体長時間になります。これは私個人の感覚なのですが、そうすると、お昼にどこかへ食べに行ったり飲みに行ったりしようということに、仲間同士でなります。そういったときに、先ほど松川委員がおっしゃられたように、お昼から飲食できるお店があるのかどうか、このあたりの連携は市のほうでお願いするのでしょうか。

(政策企画部課長補佐)

政策企画部の川上です。新潟青年会議所が早めにオープンしてくれないかと、各飲食店に働きかけていると伺っております。

(野澤委員)

わかりました。では、私もお店に伺いたいと思います。

(議 長)

ほか、ございますか。ないようですので「2026 JCI ASPAC 新潟大会について」、終わらせていただきたいと思っております。

続きまして「えんでこまち歩き」について、地域課阿部課長お願いいたします。

(地域課長)

では、続きまして、「えんでこまち歩き」についてお知らせさせていただきます。お配りしたチラシをご覧くださいと思います。両面刷りになっております。この事業は、中央区の特色ある区づくり事業の1つとして実施するもので、まち歩きの達人、新潟シティガイドが、まちの魅力をわかりやすく解説しながら、区内の見どころを案内いたします。

チラシの裏面をご覧くださいと思います。今回は新たに2コースが加わり、全9コースになります。1番のコースと8番のコースが新しく設定したコースでございます。お菓子の工場を見学できるコースや、人気のランチ付きコース、沼垂テラスでのお買い物も楽しめるコースなど、全9コースで実施いたします。各コースとも事前に申し込みが必要となります。申し込み方法など、詳しくはチラシをご覧くださいと思います。まだ締め切りまで日がありますので、中央区の魅力発見の旅にぜひお出かけいただければと思います。地域課からのお知らせは以上となります。ありがとうございます。

(議 長)

ありがとうございます。こちらについて、ご質問、ご意見ある方いらっしゃいました

ら、挙手をお願いいたします。ないようですので、各所管からのお知らせは以上となります。ありがとうございました。

(2) 委員からのお知らせ

(議 長)

その他、委員からのお知らせとなります。お知らせをお持ちの委員の方、いらっしゃいましたら挙手をお願いいたします。

松川委員、お願いします。

(松川委員)

第1部会の松川です。ここでは公共交通研究家の松川としてお知らせさせていただきます。「アプリでバス無料デー」のチラシをご覧ください。一昨年の秋から始まったバス無料デー、今年度も2回計画されております。第1回目が5月24日日曜日に決定しております。配布したチラシには「作成中」と書いてありまして、確定版ではないですが、概ね内容については決まっているということで、大きな変更はないと説明を受けております。

第2回目のバス無料デーから同様なのですが、今回もアプリ「りゅーと Link」をダウンロードしていただき、こちらでバス1日無料乗車券を入手していただき、降車時に運転手さんに画面を見せることで無料になります。私自身、毎回当日はバス停で観測をしているのですが、多くの方がICカードをタッチしていたり、現金を払っていらっしゃる方もいます。非常にもったいないですので、各選出母体で周知していただきたいと思っております。

ちなみに、ダウンロードの操作方法を教わる機会もあるそうです。ぜひ5月24日、1年で一番気候もいいときですので、この日はバスに乗って無料でまちなかを回っていただきたいと思っております。

裏面のコラボ企画をご覧ください。1番から14番までありますけども、特に私がお伝えしたいのが、6番の「にいがた推しメシプロジェクト」になります。こちらは第9期第1部会で行いました、インスタグラムと連携した企画です。インスタグラムをまだダウンロードしていない方はこの機会にダウンロードしていただき、「にいがた推しメシプロジェクト」と検索して内容をチェックしてください。私のほうで直接お店に伺いまして、10店舗参加のご了承をいただいております。割引ですとかサービス、カツ丼のカツが1枚増えるとか、とてもお得な内容になっております。これはアプリの画面を見せるだけでその対象になりますし、チェックインラリーということで、各お店に行きますと、二次元コードを読むとポイントがたまりまして、たまるいろいろなサービス、特典が受けられるという、二重にうれしい企画になっております。皆さん5月23日までに1日無料乗車券を準備の上、5月24日日曜日はバスに乗って街中を回ってい

	<p>ただき、大いに楽しんでいただきたいと思います。</p> <p>また、別件ですが、5月10日に第1部会で早川堀通りつつじ祭りにブースを出しますので、皆さんぜひ早川堀のほうにもお越しく下さい。よろしく願いいたします。以上です。</p> <p>6 閉会</p> <p>(議 長)</p> <p>ありがとうございます。ほかに、お持ちの方いらっしゃいますでしょうか。ないようでしたら、令和8年度第1回中央区自治協議会全体会議を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
県議・市議	2名
傍 聴 者	0名
報道機関	1社